

薩摩川内市立朝陽小学校

閉校記念式典

～ 平成30年3月11日（日）～

○ 閉校式

ハレの日にふさわしい、晴天に恵まれました。



厳粛な雰囲気の中、閉校式は進んでいきました。



学校長と代表児童により、校旗が返納されました。



児童代表 お別れのことば

梅の花が花開き、いつものように春がやってきました。春は、別れと出会いの季節です。

わたしには、中学校への進学による新たな出会いが待っています。その一方で、大きな別れがあります。朝陽小学校との別れです。

今から六年前、わたしは、朝陽小学校に入学しました。入学したばかりの一年生の時は、学級の友達といっばい遊んだことを今でも思い出します。小学校の生活の中では、みんなとの遊びが一番の楽しみであり、今もそれは変わりません。

朝陽の仲間たちは、学校や公園で兄弟のように遊びます。困っているときには、いつでも声をかけてくれます。だから、いつも安心して学校生活を楽しむことができました。

小学校生活での一番の思い出は、何ととっても閉校記念秋季大運動会です。わたしは、赤組団長をつとめました。初めは、チームのまとまりがありませんでした。「なぜ、うまくいかないのだろう。」と悩み、心配しました。大きな不安がわたしをおそいました。でも、練習していくうちに、少しずつチームの心が一つになっていきました。そして、よい状態で本番をむかえることができました。

一番自信があった応援合戦は、みんなで団結して最高の演技ができました。これまでの苦しかった思いが吹き飛ばす、大満足の出来でした。

最高の応援合戦ができた一方で、朝陽小学校最後の運動会というプレッシャーを常に感じていました。団長としての責任もありました。勝りたいという思いもありました。競技は厳しい接戦でした。しかも、最後の紅白リレーでは、ゴール直前で自分が抜かれるという悔しい結末となりました。優勝はないと覚悟していました。

閉会式の成績発表で、自分のチームの優勝を知りました。嬉しさで涙が止まりませんでした。わたしはこの運動会を通して、人と人とが協力し支え合う力を実感し、その大切さを学ぶことができました。

でも、今振り返ってみると、「人と人とが協力し支え合う」ことの大切さは、地域の方々とのふれあいの中で、いつしか育んでいただいたものだったように思います。登下校で話しかけてくださる方々、学校行事にいつも来てくださる方々、習字教室や寺子屋でお世話になった先生方。わたしたちは、いつも朝陽の方々の温かい眼差しに見守られ、支えられ、のびのびと育てていただきました。本当にありがとうございました。

百十周年記念碑にある「あさひのように」という言葉には、愛宕の山からのまぶしい朝日のように、わたしたちにきらきら輝いて欲しいという願いがこめられていると思います。わたしたら25名は、147年の歴史を誇る朝陽小学校最後の児童となりました。この朝陽小学校でかたく結ばれた友情と、朝陽小学校最後の児童という誇りと自覚をもって、入来中学校や入来小学校で「あさひのように」輝いていきます。

わたしは、この朝陽小学校が大好きです。でも、お別れです。

大好きな朝陽小学校へ。

ありがとう。

そして、さようなら。

○ 閉校記念碑除幕式

除幕式に先立ち、感謝状の贈呈が行われました。



御来賓の3名と学校関係者3名及び代表児童1名により、除幕が執り行われました。



記念碑のお披露目と共に、歓声があがりました。



○ 郷土芸能披露 ～朝陽太鼓踊り～

朝陽太鼓踊りを御披露いただき、閉校に華をそえていただきました。



○ 朝陽小学校感謝のつどい（文化祭）

午後からは、「朝陽小学校感謝のつどい（文化祭）」が行われました。

惜別と感謝の気持ちが込められた文化祭となりました。（以下、一部紹介いたします。）



○ お別れ交流会

朝陽コミュニティセンターにて、お別れ交流会を行いました。

かつて、同じ学び舎で過ごした仲間と、小学校時代の思い出を語り合う姿がありました。



平成30年3月31日をもって、147年の歴史を刻んできた朝陽小学校は閉校となります。大変寂しいことであると思いますが、それぞれの皆様の心の中に、朝陽小での生活は、素晴らしい思い出として、これから先も残り、それぞれの人生を支える大きな力となってくれると思います。朝陽小学校への惜別の念が消えることはありませんが、朝陽小学校のシンボルである石垣と2本のイチョウの木はいつまでも皆様を、そして朝陽を見守ってくれることと思います。惜別の念を胸に、全ての方々が、今後益々ご活躍されることを祈念いたします。